

科目区分：大学院
担当教員：藤本 義明

授業科目名：フィールド演習

フィールド演習（後期）の授業評価

所属講座：数学教育 氏名：藤本義明

1. 授業の概要

フィールド演習の履修者は数学教育専修の1名であった。通常は、提案型の授業の指導案を作成し、授業実践を行うが、今回は、修士論文において生徒の評価を行う必要があるため、それと関連付けて、生徒へのアンケート調査と主成分分析や因子分析の実践を行った。提案型の授業の開発としては、指導案の作成までを行った。

2. 評価方法

評価の方法としては、以下の質問項目に文章の形で回答してもらった。

1. 満足度はどの程度か、その理由等
2. 修論研究への寄与はどうか
3. 修論研究と関連させた方が良かったかどうか
(授業実践ができなかったが)
4. 研究成果の発表(会)についての感想、意見等
5. その他、フィールド演習の後半への感想・意見

3. 結果

それぞれの質問項目への学生の回答は以下の通りであった。

<1について>

フィールド演習後半の授業に関しては、大変満足しています。数学の講座受講者が一人であったこともあり、私個人のペースで授業を進められた点が特に良かったです。授業作りや「数学のよさ」に関して、観点が深まっていい講座となり充実していたと思います。

<2について>

修論研究への寄与は高いものがあったと思います。課題学習における「数学のよさ」について考察できたところが良かったと思います。

実際にアンケートを行い、結果について考察できた点も良かったと思います。それに伴い、主成分分析や因子分析についても考察を行い、修論研究の道筋が見えてきたように思います。また、「主体性」に関しての課題も明確になり、今後取り組むべきものが把握できました。

<3について>

修論研修と関連させて良かったと思います。私は、現職教員でもありますので、授業実践は4月から行えます。フィールド演習では、修論研究と関連させて行った方が充実したものになったと思います。今の状態で授業実践しますと、生徒の様子がわからないまま、授業を行いますので、実り多い実践になりにくい一面があります。4月以降、学校に復帰してから、授業実践を行った方が考察を行う上でも効果的であると思います。

<4について>

他の講座の発表を聞くことで、授業作りに関して得るものがありました。教材に対する視点が他の教科では異なるので、授業作り参考にになりました。

<5について>

フィールド演習前半において、授業作りの観点を心得、付属校で授業を観察し、分析する。そして、フィールド演習後半で実際に授業を構成していく流れでよいと思います。

4. 分析とまとめ

修論と関連づけたことで、学生としては満足しているようである。フィールド演習の提案型授業の開発、実践という目標からそれる恐れもあるが、フィールドにおける演習という意味を持たせながら、修論と関連づけることも大切であろう。